洋上アルプス

NO.213

平成２４年１２月５日
林野庁屋久島森林環境保全センター発行
鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333
ホームページアドレス http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/syoukai/hozentop2.htm

縄文杉クローン苗提供除幕式

十一月六日、屋久島環境文化村センターにおいて、当署と屋久島環境文化財団、ゆかり幼稚園の園児らが参加し、「縄文杉クローン苗」提供の除幕式が行われました。

このクローン苗は、平成十七年に積雪のため落下した縄文杉の枝「いのちの枝」から育成した挿し木苗。今後、観光客や地元の子供達に見ていただき、屋久島の自然環境への理解に繋がるように、当署が同センターへ提供したものです。

除幕式において米田森林管理署長は、「屋久島の自然や森林について、身近に勉強できる機会になればと思います」とあいさつし、児童に記念品を贈呈しました。

なお、同センターでは、十二月二四日まで苗木の愛称を募集しています。

式典での記念撮影

アサヒビールグループ『ボランティア活動』

十一月十七日、白谷雲水峡にてアサヒビールグループ十二名と屋久島レク森協議会構成関係機関十九名により、活動支援協定に基づくボランティア活動が実施されました。

今回の活動内容は、管理棟からサツキ吊り橋までの木道と手摺りの苔落としや、滑り止め板の取り替え作業を四班に分担して行いました。

木道の滑り止めの交換

手摺りの苔落とし

当日は、あいにく冷たい雨が降る天候でしたが、ブラシで磨く苔落としには最適な条件となり、効率良く作業が進みました。

参加者の皆さんは、額に汗するほど熱心に取り組んでくださり、木道・手摺り本来の木目がよみがえり、メインルートが綺麗になった成果に満足されていました。参加者の皆さんに感謝申し上げます。

参加されたボランティアのみなさん

屋久島生態系モニタリング

屋久島西部地域における ヤクタネゴヨウ生育調査（平成21年度）

****調査地点**

調査はⅠヤクタネゴヨウ群落プロット調査と、Ⅱヤクタネゴヨウの単木モニタリング調査に分かれる。

Ⅰの調査プロットは、「国割岳西斜面」分布域内の最も大きな主要分布域内に４箇所設定されている。ただし、既往プロット内の２点（前回平成 16 年の 380m と 470m プロット）は急斜面の崖上にあり、地形的な制約ゆえ継続的なモニタリングが困難と判断し、近辺の同様な林分構造（ヤクタネゴヨウが高木層の優占種であり林分の階層構造が相似している）の場所を２点（420m と 470m プロット）選定した。

Ⅱのヤクタネゴヨウ単木モニタリングは、前回と同様に、Ⅰのヤクタネゴヨウ群落プロット周辺に出現する 62 本を対象にした。ただし、前回調査時のヤクタネゴヨウ立枯れ木（枯死木）で、その位置関係から、周辺モニタリング木に影響を与えないと判断した５本と、ザイルを使用しないと調査地点へ到達できない生立木１本の計６本については、モニタリングの対象木から除外した。

場所(プロット名)		生立木	枯死木	計
T尾根		23	1	24
T・A尾根中間		1	0	1
A尾根	① 420m	4	0	4
	② 470m	5	2	7
T尾根	③ 560m	19	5	24
	④ 700m	0	2	2
計		52	10	62

(注)A・T　尾根はヤクタネゴヨウ調査隊が便宜的に使用している小尾根名。

アサヒビール(株)のレク森支援協定 更に平成二十九年末まで 五年間延長

十一月十六日、アサヒビール（株）と屋久島レクリエーションの森保護管理協議会は、平成二十年に締結した「レクリエーション」の森の整備・管理及び活用に関する支援協定を更に五年間延長し、平成二十九年末までとする協定書の調印式を、屋久島町役場本庁で行いました。この協定は、屋久島レクリエーションの森（ヤクスギランドや白谷雲水峡）の整備・管理のため、年間に十日間・各一人程度の労力提供および年間三十万円の資金提供を行うものです。

調印式にて、アサヒビールの岡本為男鹿児島支社長は、「引き続き屋久島の自然に貢献したい」と話し、レク森協議会の荒木耕治会長も支援に対する謝意を述べました。アサヒビール(株)のこれまで五年間の活動支援に対しお礼を申し上げるとともに、引き続き五年間延長いただくことに厚く感謝申し上げます。

協定書に調印する岡本支社長と荒木会長

屋久島の植物

オオタニワタリ
（チャセンシダ科）

三重県以西の暖地に分布し、木や岩の上に生える大型の美しいシダ。

葉は厚く、長さ一㍍にもなり、鳥の巣状に叢生する。胞子のう群は葉脈に沿って付き、葉近くまで伸びる。

第九回　地スギの集い

十一月二十三、二十四日、屋久島大屋根の会主催による「地杉の集い」(屋久島森林管理署共催)が開催されました。地杉の集いは今年で九回目を迎えることとなり、開催にあたっては、南米の音楽バンド「ロス・ミドラス」や「チェレステ楽団」のミニライブが行われ、晴れやかで活気のある幕開けとなりました。

歩き初めの様子

二十三日は、大屋根の会の会員等によって整備された旧楠川歩道(地杉に囲まれた山道)を、島内外からの参加者約三十名で歩き初めを行いました。この歩道は、古くから林業を営む人々が仕事場へ通うために作られた道であり、林業の歴史を学習できる場として期待されています。山道は往復約三時間の道のりでしたが、楠川の流れる音や杉の枝葉でふかふかする足下の感触に、参加者からは「気持ちのいい汗が流せた」、「舗装道路と比べて疲れない」といった声が聞かれました。

二十四日は、屋久島環境文化村センターにおいて、講演会と意見交換会が行われました。講演会では、木育を研究されている浅田茂裕氏(埼玉大学教授)による「木と共に育む地杉の魅力再発見」と題した講演が行われました。浅田氏は、木材が子供の心身の健康に与える影響などを分かりやすく説明され、木材を扱う当署職員にとっても「木育」の重要性を考える良い機会となりました。意見交換会では、松下生活研究所の松下所長をコーディネーターとして、浅田氏、樹木医の荒田氏、林家の笠井氏、大屋根の会事務局長の浦田氏、そして会場の参加者を交え、地杉をはじめ屋久島の木材資源の有効利用等について議論が行われました。

熊毛地区植樹祭

十一月八日、西之表市(あっぽ～らんど)にて、「平成二十四年度(第五十九回)熊毛地区植樹祭」が行われました。この植樹祭は、熊毛流域の一市三町により毎年持ち回りで開催されており、当日は穏やかな秋晴れのなか、林業関係者約百五十名が参加しました。

今年の植栽樹種は、メジロなどの小鳥が集まる森をイメージして、ヤブツバキが選定され、植樹祭テーマは、一般公募で選ばれた「じまんのふるさと　みどりのバトンでつなげよう」(西之表市立伊関小学校の児童の作品)となりました。参加者はヤブツバキがしっかりと根付き、早く綺麗な花を咲かすことを期待して丁寧に植栽していました。

植樹祭の様子

百三十作品から各賞を選定
「屋久島レクリエーションの森」作文

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会では、本年三月十六日に「屋久島国立公園」が誕生したことを記念して、自然休養林(白谷雲水峡・ヤクスギランド)と風景林(大川の滝・千尋の滝・田代ケ浜)に親しみ、郷土の自然、森林の大切さを認識してもらうとともに、レクリエーションの森の普及啓発を行うため、屋久島町内の小中学生を対象に作文を募集しました。

今回は、甲乙付け難い百三十作品(小学生七十七作品、中学生五十三作品)の応募があり、賞の授与に当たっては、小・中学校それぞれ25作品の推薦を屋久島町教育委員会からいただき、その中から各賞の選定(十九作品)と講評を環境省屋久島自然保護官事務所にいただきました。

各賞の受賞者は次のとおりです。

○小学生の部

最優秀賞	内田朝臣（宮浦小３年）
優秀賞	市地福太郎(神山小５年)
〃	上原駿介（八幡小５年）
奨励賞	假屋桃佳（宮浦小５年）
〃	和田拓真（安房小４年）
〃	生出あおい(神山小４年)
〃	伊藤　花（神山小４年）
〃	銀屋夏光（神山小５年）

○中学生の部

最優秀賞	眞邉海斗（中央中１年）
優秀賞	多久島そら（中央中２年）
〃	種子田莉央（中央中１年）
奨励賞	松田純平（中央中１年）
〃	田中希望（中央中２年）
〃	中嶋友里恵（中央中２年）
〃	三浦優衣（中央中２年）
〃	岡留虎太郎（岳南中２年）
〃	織田琉矢（岳南中２年）
〃	日高玲奈（岳南中２年）
〃	鹿島楓華（岳南中２年）

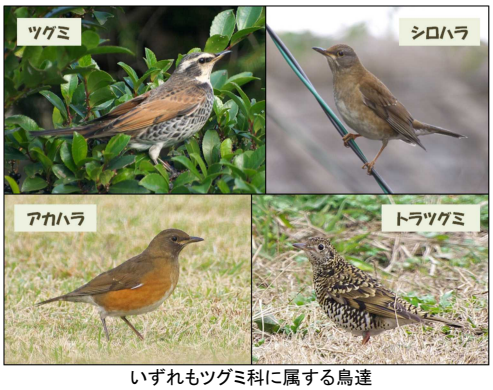
屋久島の野鳥

《身近な冬鳥　ツグミの仲間》

屋久島で最も目にする機会が多い冬鳥といえば、ツグミの仲間でしょう。今の季節、車道に飛び出してくる危なっかしい鳥がいたら、だいたいがこの子達です。

特に数が多いのがツグミとシロハラ。ツグミは草地や農耕地等の開けた環境を好み、シロハラはすぐに身を隠せる林縁部に多く見られます。アカハラは前の二種よりずっと数が少ないですが、シロハラと同じような場所で見られ、名前のとおり腹部が赤っぽいことで容易に区別ができます。

トラツグミは見る機会こそ稀ですが、冬になると人里にも姿を現します。屋久島では、夏季は高所の山岳地帯で生活し、冬季にのみ低地に下りてくる「漂鳥」であると思われますが、冬鳥として島外から渡ってくる個体がいる可能性も否定できません。



いずれもツグミ科に属する鳥達